

My Sonic Signature Gold の導入(33)

—バッハを聴く(32)—

1. はじめに

My Sonic Signature Gold の導入に際して、「バッハを聴く」のシリーズを実施してきており、今回は、バッハのトッカータとフーガなどのオルガン曲を取り上げます。

2. My Sonic Signature Gold の試聴方法

試聴方法は、My Sonic カートリッジの導入(13)と同様とします。

【アナログ盤】

ARCHIV SLAM-1 ヘルムート・ヴァルハ

J.S.Bach トッカータとフーガニ短調 BWV565

J.S.Bach プレリュードとフーガニ短調 BWV547

ARCHIV MA5007 ヘルムート・ヴァルハ

J.S.Bach トッカータとフーガニ短調 BWV565

J.S.Bach トッカータとフーガヘ長調 BWV540

J.S.Bach ドーリア調トッカータとフーガヘ長調 BWV538

J.S.Bach トッカータ、アダージョとフーガハ長調 BWV564

LONDON SLA 1005 カール・リヒター

J.S.Bach トッカータとフーガニ短調 BWV565

J.S.Bach 幻想曲とフーガト短調 BWV542

J.S.Bach パッサカリアとフーガハ短調 BWV582

3. My Sonic Signature Gold の試聴結果

ARCHIV SLAM-1 のヴァルハ盤は、盤質は繰り返し聴いたもので、1956 年録音と記載されていますが、盤質のハンディキャップや録音年代を超えて、ヴァルハの卓越したバッハ感が伝わってきます。

ARCHIV MA5007 のヴァルハ盤は、BWV565 と BWV564 が 1956 年録音、BWV540 と BWV538 が 1962 年録音で、シュニットガーのオルガンで演奏されたものと記載されています。BWV565 は、おそらく ARCHIV SLAM-1 のヴァルハ盤と同じ 1956 年の録音ではないかと思われませんが、ジャケットのデザインが新しく、カットイングは後の時代と思われ、盤質も良く、透明感がありますが、ARCHIV SLAM-1 のヴァルハ盤の厚みのある音にも好感が持てます。演奏は、いずれの曲も、ヴァルハらしい定評のあるものです。

LONDON SLA 1005 のリヒター盤は、HiFi 調の音で、もともと即興性のあるトッカータをリヒターが自由な発想でのびのびと演奏しています。

4. まとめ

バッハのトッカータとフーガなどのオルガン曲を 3 枚取り上げましたが、どれも魅力的な演奏です。自由奔放な演奏のリヒターと慎ましく落ち着いた演奏のヴァルハの対比が興味深いところです。

以上